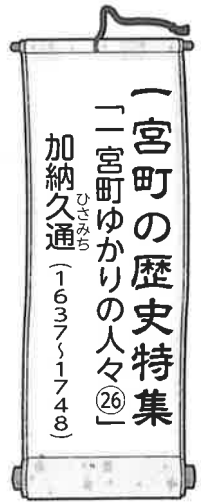


令和3年4月号



吉宗の將軍辞任後も若年寄として仕え、寛延元年(1748)に76歳で死去しました。

加納久通は紀伊国和歌山藩主・徳川吉宗(1684~1751)に仕えた人物です。享保元年(1716)、吉宗の江戸幕府8代將軍就任とともに幕臣となり、伊勢国(三重県)内で1千石を与えられました。翌年に1千石を増されたのち、享保11年(1726)には伊勢国、上総国などでさらに8千石を増され1万石の大名となりました。この時加増された領地の中に一宮本郷村、新笈村(現一宮町字一宮)などが含まれていました。当初は伊勢国八田(東阿倉川)に陣屋を置いたため、八田藩(東阿倉川藩)と呼ばれていました。

有馬氏倫(1668~1736)とともに御側御用取次(將軍側近衆)として幕政に参画、「享保の改革」では中心的な役割を果たしました。有馬が気の強い性格であった一方で、久通は穏やかな性格であったため、政策をうまく進めることができた

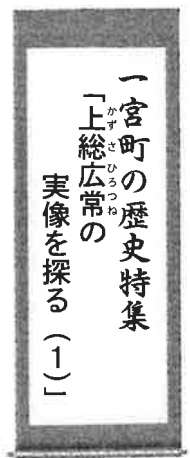
写真が玉前神社が所蔵する古文書(掛け軸)で上が加納久通の書状、下が加納家家老・吉川久豊の副状(本文書に添えた書状)です。内容は宛先の南谷和尚という人物が久通が病気の際、病氣平癒の祈禱をしてくれたことへのお礼状です。宛先の南谷和尚はどうやら久通が親しくしていた京都の僧侶のようですので、なぜこの文書が玉前神社に伝わっているのか、謎が残る資料です。



▲ 加納久通・吉川久豊書状(玉前神社所蔵)

【問合せ】教育課 (学芸員 江澤一樹) ☎(42) 1416

令和3年5月号



来年2022年の大河ドラマのタイトルルは何か、皆さんご存知でしょうか。答えは「鎌倉殿の13人」。脚本は三谷幸喜さん、主人公である北条義時を俳優の小栗旬さんが演じます。

この大河ドラマ、タイトルを聞いてもピンとこない人が多いと思います。物語の舞台は平安時代末期から鎌倉時代初期です。タイトルの「鎌倉殿」は鎌倉幕府の棟梁、ないしは幕府そのものを指し、13人とは源頼朝死後の集団指導体制で中心となった御家人13人を指しています。つまり、この作品では鎌倉幕府初期の合議制の政治とその政治を巡る駆け引きが描かれていくことになりま

す。この物語の前半は幕府の成立までが描かれることになりませんが、その主要人物の中に、一宮ゆかりの上総広常がいます。4月15日、キャストの追加発表表がされ、広常は俳優の佐藤浩市さんが演じることになりました。

広常については平成28年8月号の本コラムでも簡単に紹介しました。房総

地方に強大な力を持ち、幕府の成立に大きく貢献した人物ですが、最終的に頼朝に謀殺されてしまっています。そのため、いわゆる「敗者」として、その歴史は謎に包まれています。彼の実像に迫ることは、一宮の歴史を明らかにするだけでなく、日本史を考えるうえでも非常に重要なことです。

キャスト追加発表の予告の際、三谷さんは広常を「まさに鎌倉幕府をつくったのはこいつじゃないかと言つてもいいくらいの人物」と称したうえで、「なぜか歴史にはほとんど残つていない」と述べられました。謎が多い広常。今回から数回にわたり、その実像を探っていきます。



▲ 上総広常(『本朝百将伝』明暦2年(1656)より、出典:国立公文書館デジタルアーカイブ)

【問合せ】教育課 (学芸員 江澤一樹) ☎(42) 1416